

JCS NEWS

ヤーノシュ・ シュタルケル

生誕 100 周年 チェロ・フェスティバル

CONTENTS

ヤーノシュ・シュタルケル生誕 100 周年 2 - 5
チェロ・フェスティバル開催報告
マスタークラス開催報告

kongress・プロモーション 6

チェロ・サロン実施報告 7
若きチェリストたちの演奏会開催レポート

MEMBER'S VOICE 8
事務局からのお知らせ

マスタークラス 開催報告



OLE AKAHOSHI
MARC COPPEY
SUNG-WON YANG

Cello Salon チェロ・サロンの 開催報告



ヤーノシュ・シュタルケル

生誕 100 周年 チェロ・フェスティバル

2024年7月3日～5日 🇰🇷 ソウル ロッテコンサートホール
2024年7月5日～7日 🇯🇵 東京 サントリーホール ブルーローズ

チェロ奏者として、教育者として、そして人間として人々を魅了し、音楽の世界を切り拓いた、ヤーノシュ・シュタルケルの生誕 100 年となる 7 月 5 日を中心に、堤剛理事長、ヤン・ソンウォン氏が、師に捧げるオマージュとして、チェロ・フェスティバルを開催。

彼を慕う音楽家たちがソウルと東京に集いました。

Photo
7月5日 © Koji Iida / SUNTORY HALL
7月6日 © Naoya Ikegami
7月7日 © Naoya Ikegami
ポスター写真の提供 大久保 恵

2024
JULY
05
FRI

100

シュタルケル100回目の誕生日

『ブラームス ソナタの夕べ』

◎ 19:00開演 ♪ サントリーホール ブルーローズ (小ホール)



チェロ：西谷 悠人、ピアノ：練木 瑠子



チェロ：三宅 進、ピアノ：練木 瑠子



チェロ：堤 剛、ピアノ：練木 繁夫

ブラームス：チェロとピアノのためのソナタ
第1番 ホ短調 作品38

ブラームス：チェロとピアノのためのソナタ
第2番 ヘ長調 作品99

ブラームス：チェロとピアノのためのソナタ
ニ長調 「雨の歌」

(ヴァイオリンとピアノのためのソナタ
第1番 ト長調 作品78 からの編曲)



2024
JULY
06
SAT

『ソナタ&アンサンブル』

◎ 18:00開演 (17:00~ プレコンサートトーク) ♪ サントリーホール ブルーローズ (小ホール)



チェロ: 西谷牧人、三宅進

バルトーク: 二重奏曲より



チェロ: ゲイリー・ホフマン、ピアノ: 藤木繁夫

ベートーヴェン: チェロと
ピアノのためのソナタ
第4番 ハ長調 作品102-1



チェロ: ハン・ジェミン

コダーイ: 無伴奏チェロ・ソナタ
作品8より第1楽章



指揮: アンソニー・エリオット

2024
JULY
07
SUN

『6人のバッハの世界 (バッハ: 無伴奏チェロ組曲全曲)』

◎ 14:00開演 (13:30~ プレコンサートトーク) ♪ サントリーホール ブルーローズ (小ホール)



プレコンサートトーク: ヘルガ・ウィノルド



堤剛

無伴奏チェロ組曲第1番
ト長調 BWV 1007



マルティナ・シューカン

無伴奏チェロ組曲第4番
変ホ長調 BWV 1010



マーク・コソヴァー

無伴奏チェロ組曲第5番
ハ短調 BWV 1011



マルク・コッペイ

無伴奏チェロ組曲第3番
ハ長調 BWV 1009



オーレ・アカホシ

無伴奏チェロ組曲第2番
ニ短調 BWV 1008



ヤン・ソンウォン

無伴奏チェロ組曲第6番
ニ長調 BWV 1012



S-209
堂向 純央
ブリテン..無伴奏チェロ組曲第2番
デクラマート、フーガ

レッスンの冒頭、オーレ・アカホシ先生はブリテン自身が指揮者として関わる『戦争レクイエム』のリハの様子を視聴できる貴重な映像について話してくれました。ブリテンが曲を創作する際に、音



Class 01

2024年7月6日(土) 10:00開講

オーレ・アカホシ氏



会場：サントリーホール リハーサル室
通訳：花田 和加子
受講生：各回2名



S-214

河田 実聖

ピアノ..佐藤勝重

ベートーヴェン..チェロソナタ第3番
作品69より第1楽章

当日は、聴講される方々が本当に目の前にいらして緊張してしまい、譜面を見ているはずなのに、途中でどこを弾いているかわからなくなっていました。でも先生は、最後まで弾いたことを労ってください、そこから平常心で集中して臨むことができました。

何より強く印象に残っていることは、自分の呼吸と同じように弓を動かすことです。これまで、固く弾きたい時に弓が止まってしまう癖があったのですが、そういうときでも、自分が息を止めてはいけない、息と同じように弓を動かすんだよ、というご指導が、自分の中で一番深く刻まれました。また、休符の関連性も同様です。音のない余白の音楽をどういうふうに捉えるのか、『休符も音楽のうちである』、頭では理解できてもなかなか難しかったです。しかしその後のコンサートの先生の演奏はこのことを体現してくださり、楽器と一体化しているようでもとても学びに



Class 02

2024年7月6日(土) 12:30開講

マルク・コッペイ氏



S-207

小野 順平

J.S.バッハ..無伴奏チェロ組曲
第6番プレリュード

この度はヤン・ソンウォン先生のレッスンを受講させていただきました、ありがとうございます！公開でのマスタークラスは初めての経験で、最初に曲を通して演奏するときはとても緊張しましたが、聴講の方々、そして先生から拍手をいただき、少し気が楽になりレッスンを受講できました。

受講曲は先生がコンサートで演奏された、バッハ作曲の無伴奏チェロ組曲第6番よりプレリュードでした。レッスンでは、先生が最初にバッハの音楽はLEGOだとおっしゃり、音楽の構築の仕方を細かく教えていただきました。調性を変



Class 03

2024年7月7日(日) 10:00開講

ヤン・ソンウォン氏

の長さ、発音、特定のフレーズが持つキャラクター、全てにおいて明確なアイデアを持って細かく楽譜に書き込んでいるのが理解できました。その上で先生と一緒にダイナミクスに注目しながら、もう一度曲を弾いていきました。デイミヌエンドの表記で音楽が減衰してしまう自分に、フォルテという領域の中でそれを行うにはどのように楽器と向き合えばいいのか、右手のレガートの重要性、ビブラートの可能性、また姿勢について多角的な視点で教えてくれました。僕の楽器をまだ僕が聞いたことがないくらいに素晴らしい音で弾いてくださったことも嬉しかったです。

オーレ・アカホシ先生はレッスンの中で僕にたくさんの方のアイデアを与えてくれ、解決に向けて選択肢を提示してくれました。そしてシユタルケル先生がおっしゃったという「常に疑問を持って弾く」という言葉が僕にとっても大切な言葉として響きました。このような機会を与えてくださり感謝の気持ちでいっぱいです。これからも成長していけるように頑張ります。

S-257 丸山悦未子

ピアノ…今田篤

ベートーヴェン…チェロソナタ第3番 作品69より第1楽章

この度は、オーレ・アカホシ先生のマスタークラスを受講させていただきました、ありがとうございました。



私は、ベートーヴェン…チェロとピアノのためのソナタ第3番より第1楽章を受講曲に選びました。この曲には音階やアルペジオの形をした旋律が多くあり、その表情付けに苦戦していたのですが、アカホシ先生がフレーズごとのイメージを引き出してくださり、情景を思い浮かべながら弾くことが出来ました。また、「チェロとピアノのためのソナタ」としてのピアノとの合わせ方についても学びました。その他にも、ただ楽譜にある音符を鳴らすだけではなく、それぞれの音に込められた意味について疑問を持ち、その答えを探しながら弾き方を研究する事が大切だということも教えていただきました。今回の学びを活かし、これからも精進致します。

最後になりましたが、マスタークラスを開催し参加する機会をくださった日本チェロ協会や関係者の皆様に感謝申し上げます。

なりました。

これまでは曲に対してご指導されることが多く、癖や弾き方をご指導されることは少なかったのですが、初めは戸惑いでしたが、一期一会のマスタークラスではとても有意義なことでした。マスターして今後の演奏に生かしていきたいと思えます。最後になりましたが、このマスタークラスを企画してくださったチェロ協会の皆さまに感謝いたします。ありがとうございました。

S-268 藤野真美

ピアノ…松谷園子

ベートーヴェン…チェロソナタ第4番 作品102より第1楽章



私は幼少期から日本で音楽を学んできましたが、大学を卒業した今、同じ環境に身を置き続けることに不安感を覚えることも多々ありました。そんな時にこのマスタークラスの存在を知り、何か新たな糸口を得るきっかけになればと思いい応募しました。

コッペイ先生のレッスンは情熱的でありつつも理路整然としていて、細かな曲の構成を理解すると同時に、常に推進力を持ってフレーズを長く捉えるようにとアドバイスをくださいました。また常にリラクセスした状態で音が出せるよう、身体の使い方についても教えていただきました。

自分の演奏はいつも自己完結になってしまいがちで、より音楽のスケールを大きくするにはどのようにするべきか悩んでいたのですが、スケールの大きさというのは力任せに大きな音を出したり感情的になるのではなく、譜面に書かれた情報を繋ぎ合わせて大筋を立てたり、無理のない身体の使い方をして音の響きを増やすことで実現されるものなのではないかと、コッペイ先生の音楽を通して学ぶことができました。またレッスンの聴講からも得るものは多く、海外で演奏家として活躍されている先生方のリアルタイムなご意見を日本でも聞くことのできる大変貴重な経験となりました。

今回ご指導いただきましたコッペイ先生をはじめとするチェロの先生方、ピアノの松谷先生、そしてマスタークラス開催にあたってご尽力くださいましたチェロ協会の皆様に感謝を申し上げます。

わる時のテンションの変わり方、大聖堂で演奏している時の響きを想像しながらエコーの部分演奏することなど、たくさんのお話を教えていただきました。レッスンの最後には新しい練習の仕方として、弓を最低限の力で持ってゆっくり移弦や和声のことを意識しながら弾くということを教えていただきました。

弓を落としそうになってしまい、家で練習をするときは絨毯の上でやらないとね！などと、レッスン全体でユーモアたっぷりのとても楽しくあつという間の50分でした。素晴らしいレッスンをしてくださったヤン先生、舞台を準備していただいたチェロ協会の皆様に改めて感謝いたします。

S-138 西田翔

ピアノ…小森谷裕子

ブラームス…チェロソナタ第1番ホ短調 作品38より第1楽章



ヤン・ソソウオン先生のマスタークラスの開催を知った時、なんとか受講したいと強い気持ちがありました。それは、以前からYouTubeで先生のマスタークラスの様子を見たりしていて、いつか習ってみたい先生だったからです。そして先生のブラームスのチェロソナタ1番の演奏に深く感動していたので、受講が決まった時、曲はブラームス1番を教えてもらおうと決めました。

ソソウオン先生は私に欠けている部分をいくつか挙げてくださり、その1つに、曲の構成を考えて演奏しないといけないとアドバイスを下さいました。その内容はとても理解でき、今後もし練習していくべき課題の一つだと考えております。最後には音の出し方のアドバイスもいただきました。たくさんのお話が、私にとってとても有意義な時間でした。

このような機会を設けてくださった日本チェロ協会の方々に大変感謝しております。ありがとうございました。

世界はもっと響きあう

2025年2月14日(金)～16日(日) 於 サントリーホール

すべてのチェリストたち、すべての音楽を愛する人々のために。
2025年2月、3日間にわたる音楽の祭典が開催されます。

「人の声に最も近い音色の楽器」といわれ、常にアンサンブルの要となるチェロ。アジア・パシフィック・チェロ・コンGRESS2025は国内外のプロからアマチュアまで、総勢200人を超えるチェリストたちが集結し、グランド・コンサート、アンサンブル、他アートとのコラボレーション、ワークショップなどさまざまな形で、チェロの素晴らしさと可能性を体感する試みです。

今回のコンGRESSの各公演を担当して下さる、上森祥平さん、新倉瞳さん、片山実さんに、コンサートの聴きどころや見どころ、また思い等を伺いました。

ASIA PACIFIC CELLO CONGRESS 2025



P-334

片山実



P-315

新倉瞳



P-257

上森祥平

日本の伝統文化である茶の湯の源流は、中国の禅宗寺院での喫茶儀礼にあります。日本に伝来してから長い年月を経て独自の発展を遂げてきました。その発展過程においては、唐物(中国)や高麗物(朝鮮半島)のほか、ベトナムやタイなどの陶磁器を茶道具として取り入れるなど、アジア諸地域との交流も見られます。

「わび・さびの世界」とも呼ばれるように、茶の湯は静寂の中で行われるものというイメージがありますが、そこでは音が重要な役割を果たしています。例えば、釜の湯が煮え立つ音。これは松籟の音とも呼ばれ、釜から立ちのぼる湯気とともに、馳走とされています。他にもお点前中の音や、合図として使われる音など、さまざまな音が茶の湯における非日常を演出する手段として利用され、味わわれているのです。今回はチェロと茶の湯に能楽の大鼓も加わり、舞台を作り上げていきます。普段は交わることはない三者が舞台上でどのような化学反応を起こすのか。音楽と茶の湯が紡ぎ出す非日常のひとときを愉しんでいただければ幸いです。



©Hannes Henzler

「チェロ」という楽器を通し皆が一丸となって盛り上がり、音楽的に国際色豊かなアジア・パシフィック・チェロ・コンGRESS。

今回のコンサートでは、チェリスト新倉瞳のライヴワークでもあり、ドイツのワイマル音楽祭にも出演した経験を生かし、東ヨーロッパからアジアを越えアメリカ大陸まで渡った東欧の伝承曲「クレズマー」の名曲、そしてその歴史的背景にインスピレーションをうけたクラシックの名曲を中心にお届けします。

今をときめく若手のチェリストたちの共演にも、注目。「クレズマー」初体験の皆さまも簡単に聴きに、自由にご参加いただけるシーンもご用意しております。どうぞお楽しみに！

聖バルンタインの夜、クラシック音楽の殿堂とされるサントリーホールブルローズにジャズと古楽器の名手が初めて出会い、コラボする特別なコンサート。自ら活動のポスターを軽々と乗り越えて行くという魅力的なチェロ奏者達、なかでも現代を代表する即興演奏のスペシャリスト達が、それぞれ信頼する仲間達と共にこぞって登場し、ライブならではのアクティブで魅惑的な演奏を繰り広げます。

お送りする曲は350年前、三十年戦争をきっかけに生まれた特殊奏法の嵐のような作品から、思わず踊り出さずにはいられないチック・コリア作品まで、途方もなく広い時間軸から繰り出される唯一無二の音響空間が皆様を包み込みます。

クラシック音楽の殿堂ブルローズが名門ジャズクラブを彷彿とさせる雰囲気を変え、特別な夜。彼らの奏でる刺激的な音色は、新たな音楽の方向性を指し示してくれる事でしょう。

スペシャルコンサート 「東欧の風に誘われる午後」

日時 2025年2月15日(土)
12:00 開演予定
会場 サントリーホール ブルーローズ
出演者 新倉瞳、香月麗、西田翔、矢部優典、
佐藤芳明(アコーディオン)、他
曲目 カタロニア民謡(カザルス編):鳥の歌
E.プロッホ:ユダヤ人の生活 I.祈り

ブルーローズ・ バルンタイン・ナイト

日時 2025年2月14日(金)
19:00 開演予定
会場 サントリーホール ブルーローズ
出演者 上森祥平、上村文乃、北口大輔、
小林幸太郎、西谷牧人、他
曲目 H.I. ビーバー:パツタリア
C. コリア:スペイン

茶の湯とチェロ

日時 2025年2月15日(土)
14:15 開演予定
会場 サントリーホール ブルーローズ
出演者 片山守実(武者小路千家正教授)、
門脇大樹(チェロ)、
佃良太郎(大鼓)
曲目 未定



参加者数
講師：1名／クリニック受講生：2名／アンサンブル参加者：28名／聴講：9名
合計42名（会員：36名・非会員：1名・スタッフ：5名）

Cello Salon

チェロ・サロン
開催報告



ワンポイントクリニックを受講して

R-540 川原 明子

今回無謀にも「クリニックに興味がある」と書いたところ、受講できることになりました。

人前で弾くのはチェロの日のアンサンブルや発表会で少しの経験があるとは言っても、チェロを弾かれる大勢の皆さんの前で演奏は初めてで、緊張もひとしおです。中先生から、家での練習では気付いていなかった、エンドピンの長さや姿勢、左手の親指の力の入れ具合などのアドバイスからはじまり、楽譜の音をなぞるのではなく、どのような音を出したいかイメージしてから弾くこと、体は良い意味での脱力が大事、と気を付けることはたくさんあります。お話を聞きながら少し体と気持ちがほぐれていきました。頭で考えているように動作がついていくようにするには慣れないと難しいのですが、日々の練習のヒントになりました。先生の「人前での演奏は1回の練習よりも何十倍も意味がある」とのお話、本当に貴重な経験となりました。これを機会にもっと上手に楽しくチェロを弾くことができるよう、練習に励みたいと思います。

最後になりましたが、中先生、チェロ協会の皆さま、本当にありがとうございました！

後半のアンサンブルは、シベリウスの《悲しきワルツ》、ブラームスの《インテルメッツォ》(Op. 118-12)をご指導いただきました。視線を楽譜だけに集中せず、正しい姿勢でお互いのパートを感じあい、耳を傾けあう。中先生のアドバイスごとに、強弱の表現、ハーモニーの美しさが変化していく時間となりました。ご指導の最後には講評をいただき、全員での記念撮影後、懇親会を実施いたしました。初の夜間開催となりましたが、多くの方々にご参加いただき、短い時間ながらも楽しんでいただけたことを大変嬉しく感じています。主宰下さった中実穂先生にこの場を借りて心より御礼を申し上げます。

2024年5月18日(土)に、サントリーホールのリハーサル室で、中実穂先生主宰の第48回チェロ・サロンを開催いたしました。中先生は、桐朋学園大学、東京藝術大学大学院修士課程修了後、ベルリン芸術大学にて国家演奏家資格を取得。現在は東京チェロアンサンブルメンバー、NHK交響楽団次席奏者として活躍されています。

前半は、2名の方がチェロ・クリニックをご受講。川原明子さん(R540)は、サン・サランス《サムソンとデリラ》より《あなたの声に私の心は開く》、ジュームス千花さん(R304)はリヒャルト・シュトラウス《チェロソナタ》より第1楽章抜粋を課題曲にされました。弓の使い方や、細かいリズムの演奏など、短い時間の中で大変的確に分かりやすくアドバイスくださいました。



演奏会写真：久保綾子

Growing Future Talent! 「若きチェリストたちの演奏会」

(日本チェロ協会後援演奏会) 開催レポート

R-164

佐谷 記世
(こどもカザルス会代表)

5月6日(月、祝)に、兵庫県芦屋市のルネサンスクラシックス芦屋ルナ・ホールで「若きチェリストたちの演奏会」を開催しました。大阪・神戸間で2006年から続き、学校や師事する先生の枠を越えてチェロを学ぶ子供から学生が集まり演奏するコンサートです。今年も最年少が小学生までの13名が参加しました。コンサートの目的は大きく2つあり、ひとつは演奏者の親睦と演奏もうひとつは、地域の方に開きチェロとその音楽に気軽に親しんでいただくことにあります。非営利で自主的な運営で、昨年からは、日本チェロ協会の後援をいただいています。

コンサートはチェロアンサンブルから始まりました。高校生以上でグリーグ《ホルベルク組曲》より《ガヴウット》、その後全員でモーツァルト《アヴェ・ヴェルム・コルプス》とゴルトマン《レリジオン》を演奏しました。今回は本会評議員の斎藤建寛先生が事前の練習時からお越しくださり、作品の解説やアンサンブルの基本から本番の心構えまで、小さな人にもわかりやすく、きめ細やかにご指導くださいました。心からお礼申し上げます。アンサンブルが初めての人には、やや難しく感じられたかもしれませんが、各パート上級生がリードして、全員での音楽が空間に響く貴重な経験でした。

その後順番に独奏がありました。上級生による技巧的な難曲も演奏されるなか、年少の人の演奏も、丹念に練習してこられたことのわかるもので、お客様から応援と感嘆の言葉をいただきました。各演奏者による曲目解説は短文ながら、チェリストならではの知識や聴きどころも伝えてくれ、鑑賞の手助けになります。今回はピアノ以外の楽器との室内楽もあり、大学生2人でベートーヴェンの《ヴィオラとチェロのための二重奏曲》を演奏していただきました。チェロアンサンブル、独奏、室内楽と、チェロをより多面的に味わえるコンサートとなったのではないのでしょうか。

次回は来年5月11日に開催予定。1年間の成長を楽しみにすると同時に、新しい方のご参加も願っています。



ギャラリー開雄(芦屋市)でのアンサンブル練習



前列右端：斎藤建寛氏、前列左端：鈴木華重子氏(ピアノ伴奏)
後列左端：筆者



MEMBER'S VOICE

R-618 笹沼樹さん

最近パリで新しいメンターに出会い、ヨーロッパでの演奏活動も始まりました。

リサイタルやコンチェルトをやるにしても移動や会場の設備、リハーサルを進め方などでヨーロッパらしいアクセントも日常茶飯事で、日本で演奏する際の環境のありがたさを感じています。

また、東京交響楽団のアジアプロジェクトによるタイ公演、シルパコーン大学サマーキャンプ・マスタークラスの講師を務めるなど、海外と日本を行き来する毎日を送っています。

日本では6月に、SIOP Asia 2024 (第16回国際小児がん学会アジア大会)にて演奏をして参りました。当初チェリストの山本菜路さんが出演予定していましたが、懸命な闘病の末叶わず、私が代役を務めました。山本さんと私は学習院初等科から中等科、桐朋学園にて音楽の研鑽を積んだという全く同じ経歴を持ちます。これからもさまざまな形で共演を重ねていくつもりだっただけに、早いお別れとなったことは大変悲しいことです。しかし、両親を中心に、彼の想いを伝える活動は今後もますます盛んに続いていくと思います。私も微力ながら力添えをしていきます。

MEMBER'S VOICE

R-704 山本昭夫さん

チェロで想いは一つになり、心があたたまる。幸いなことに、私は3ヶ月で3度、チェロが人をつなぎ、心を豊かにする経験をしました。

7月6日、サントリーホール・ブルーローズにて、日本チェロ協会主催によるヤノシユ・シユタルケル先生の門下生が集う日本公演の2日目が行われました。第2部のチェロアンサンブルは、アンソニー・エリオット先生がシユタルケル先生を見つめながら涙ながらに笑顔を決やさず指揮棒を振り、門下生のシユタルケル先生への想いが会場を包みまわした。

6月22日、日本チェロ協会アウトリーチ活動が横浜市のパシフィック横浜で行われました。第16回国際小児がん学会アジア総会のオープニングセレモニーが舞台です。

セレモニーでは、国内外から医師や看護師、患者の保護者の皆様が集まりました。司会の寺島慶太先生と加藤美穂先生から、笹沼樹さんとともに元チェロ協会会員の山本菜路のご紹介があり、菜路の闘病後の願いだった「防音室を病院へ寄付する」活動MforMについてご説明していただきました。



山本菜路さんのチェロとブルーローズ



堤剛氏と鈴木優人氏



トリオスペラ (山崎伸子氏)

笹沼樹さんは、演奏前に山本菜路とのつながりを流暢な英語で語り、哀悼の意を込めてサン・サリンス「白鳥」とJ.S.バッハ無伴奏チェロ組曲第一番ブリュッドを弾きました。ダイナミックで繊細、厳かで軽やかにチェロの音色が会場に広がり、国際学会に花を添えました。

笹沼さんの想いは、国籍を超え、年代を超えて、菜路のことを初めて知った小児がんと闘う患者とご家族、医療従事者の皆様の心に届きました。アウトリーチの活動に賛同し、貴重な機会を与えてくださった大会実行委員長の本公一先生(国立成育医療研究センター所長)に心から感謝申し上げます。

4月30日、「山本菜路を偲ぶ一年祭メモリアルコンサート」が日本チェロ協会のご後援でサントリーホール・ブルーローズにて行われました。菜路を想ってくださいる演奏家の方々と観客の皆様が集いました。山崎伸子先生のアンサンブルが始まり、堤剛先生が「母と子のための音楽」(三善晃)をご演奏ください、会場は一つになりました。第10回チェロの日で山本菜路が一緒に過ごさせていた長谷川陽子先生と新倉瞳さんもご出演くださいました。

「防音室を病院へ寄付する」というMforMの活動は、その後広がりをみせて、菜路が知らなかった人へもその想いが伝播しています。今年度中に防音室設置の目途もたちました。チェロが人々の心をつないで世界をあたためる活動は今後も続きます。



事務局からのお知らせ

2024年度主催イベントのご案内

■チェロ・サロン

日程 2024年10月26日(土) 13:00 開講
会場 サントリーホールリハーサル室
講師 金子 鈴太郎

聴講申込締切 10月20日(日)

■ アジア・パシフィック・チェロ・コンGRESS 2025 公演情報

公演詳細については、決まり次第ホームページにてご案内いたします。

会場 サントリーホールブルーローズ
チェロ・コンGRESS公式サイト
<https://apac.cello-congress.com/2025/>



本編以外のブルーローズ特別公演

ブレママのためのミニコンサート (仮称)

日時 2月16日(日) 午後(未定)
出演者 長谷川陽子(チェロ)、仲道 祐子(ピアノ)
対象者 妊婦さんと兄弟姉妹

親子で楽しむ 参加型チェロコンサート

日時 2月16日(日) ①10:30-11:00/②11:30-12:15
出演者 高橋 麻理子、荒井 結、黒田 りり、鈴木 皓矢、音楽ワークショップ・アーティストおとみつく
対象者 小さなお子さま(未就学児から小学校低学年まで)と保護者の方

チェロ協会の公式サイトに情報を掲載できます

チェロ協会の公式サイトでは、公演情報や会員の皆さまのチェリストとしてのプロフィールを無料で掲載しております。ぜひ情報をお寄せください。

チェリストを探す



公演情報



一般財団法人 日本チェロ協会 (JCS NEWS) 第64号 2024年9月30日発行

発行 一般財団法人 日本チェロ協会
東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル19階 私書箱509号
電話 03-3505-1991 FAX 03-3582-1310 E-mail office@cello.or.jp

発行人 堤剛
編集 日本チェロ協会事務局
編集協力 株式会社アイデアリズム